



かっせんはら100

ほんち



～地域連携室だより第1号に寄せて～

こんにちは。宮城病院院長の永野です。

平成30年で国立宮城病院地域医療連携室が発足して15年目を迎えました。これを契機に当院地域医療連携室の活動を皆様へお知らせするために広報誌を発行することになりました。宮城病院は1939年にこの地で創立され長い間国立宮城療養所として結核や気管支喘息などの呼吸器疾患や重症心身障害等の政策医療を担ってきました。

現在では、主に脳卒中、神経難病などの神経疾患の医療と地域の方々を対象とした、地域医療の提供を行っています。ご存じのように、宮城病院が位置する亶理郡やその周辺の地域は高齢化率がきわめて高く、複数の身体疾患をお持ちの高齢者の方々がおおぜい生活されています。また、疾患に至らなくても、加齢により心身の動きが低下した「フレイル」といわれる状態の方はさらに多いと思われます。

宮城病院では、特にこれらの高齢の患者さんの身体的疾患、および認知症や脳卒中などの神経疾患の診療に重点的に取り組んでおります。身体的疾患の原因となる高血圧症や糖尿病などの生活習慣病の管理は極めて重要ですが、



当院では地域の
かかりつけ医として
生活習慣病をもつ患者さんの
全身を診る医療をこころがけています。

急増している認知症では、MRIやSPECTのような専門的な検査を行って、治療可能な認知症なのかあるいはアルツハイマー病のような変性疾患による認知症なのか診断を行うことで適切な治療を実現しています。脳卒中の危険因子として高血圧症や糖尿病、脂質異常症が重要なのは言うまでもありませんが、認知症の発症にも生活習慣が大きく影響します。宮城病院では、医療職だけではなく栄養管理室やリハビリテーション科のスタッフも協力して認知症をはじめとした高齢者疾患の予防と治療に、さらに力を入れていきたいと決意しております。今後は、宮城病院のさまざまな活動をこの広報誌で情報発信していきますので、どうぞご期待ください。

宮城病院 基本理念

良い医療を安全に、心を込めて

地域医療連携室長あいさつ

特命副院長

安藤 肇史（脳神経外科）

日頃より、当院地域医療連携室の業務活動にご協力を賜りまして誠にありがとうございます。昨年4月より地域医療連携室長に就任しました特命副院長の安藤と申します。

当院の地域医療連携室は、紹介患者の円滑な受診・入院、紹介元への確実な診療情報提供、転院・退院後の安定した療養等を目指して活動しております。その為に、当院で対応できるものは必ずお受けする方針で、さらにスピーディーな

対応をこれまで以上に努力してまいります。幸いスタッフも増員されたので、当院の持つ医療機器・技術をより多くの皆様に迅速かつ容易にご利用いただけたと思います。

地域の皆様方の貴重なご意見を賜りながら、より良い地域医療連携を構築できればと考えております。

今後共ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



第6回宮城病院公開講座のご案内

～この地域で生き生きと暮らすために～

3月3日（土）13:30～14:30

講演Ⅰ「歯を失わないためにハミガキより大事なこと」

講師 宮城病院 中原 寛子 歯科医長

講演Ⅱ「歯のかみ合わせとからだのバランス」

講師 宮城病院 高橋 美幸 リハビリテーション科作業療法士長

参加申込み・お問い合わせなど「地域医療連携室」まで

第1回 医療と看護・介護の多職種連携研修を開催して

平成29年11月28日に当院大会議室において研修会を開催しました。

各市町村では、超高齢社会に対して地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築が進められている。患者さんが安心して地域で生活していくために、病院と地域の医療、福祉サービスの連携が重要です。そこで、情報の共有・発信の場としてこの研修会を開催する運びとなりました。

今回の研修では、①在宅における褥瘡予防とケアについて②宮城病院地域包括ケア病棟の退院支援・調整についての2題で、事前に居宅介護事業所などにアンケートで演題のご意見をお聞きし、希望の多かったテーマで実施しました。希望に沿ったこともあり、当日は仕事帰りの時間であったにも関わらず、地域より104名の方々にご参加いただきました。

褥瘡予防については、当院皮膚・排泄ケア認定看護師の栗原幸江副看護部長より、「在宅における褥瘡ケア」とは、実際に在宅で行うケアに活用

地域医療連携係長 伊藤 充子



できる内容で、研修後のアンケートでは明日からの訪問時に活かしたいという声がありました。

また、退院支援・調整については地域包括ケア病棟、星康子看護部長から「包括ケア病棟の退院支援・調整」について、在宅までの関わりを通じたケースを紹介させていただきました。全体アンケートから「分かりやすかった」という回答を約8割からいただき、今後も在宅に退院された患者さんが入院中にどのような関わりをしてきたか、在宅との連携をどのようにとっていったのかなど、情報共有が大切と思われます。今後第2回目の研修会開催に向けて準備を進めています。

さらに充実した継続研修となるように、関係者と調整していきたいと考えております。



＊ ＊ 宮城病院「地域医療連携室」の役割 ＊ ＊

地域の医療関係機関及び介護福祉施設などとの窓口となり

- ①紹介された患者さんが円滑に入院、診療を受けられる
- ②紹介元の医療機関へ患者さんの診療情報をお届けする
- ③退院される患者さんの円滑な転院・在宅復帰ができる

上記のことを目的に調整、援助を行い、より良い医療・福祉連携の確立を目指していきます。

地域包括ケア病棟のご案内

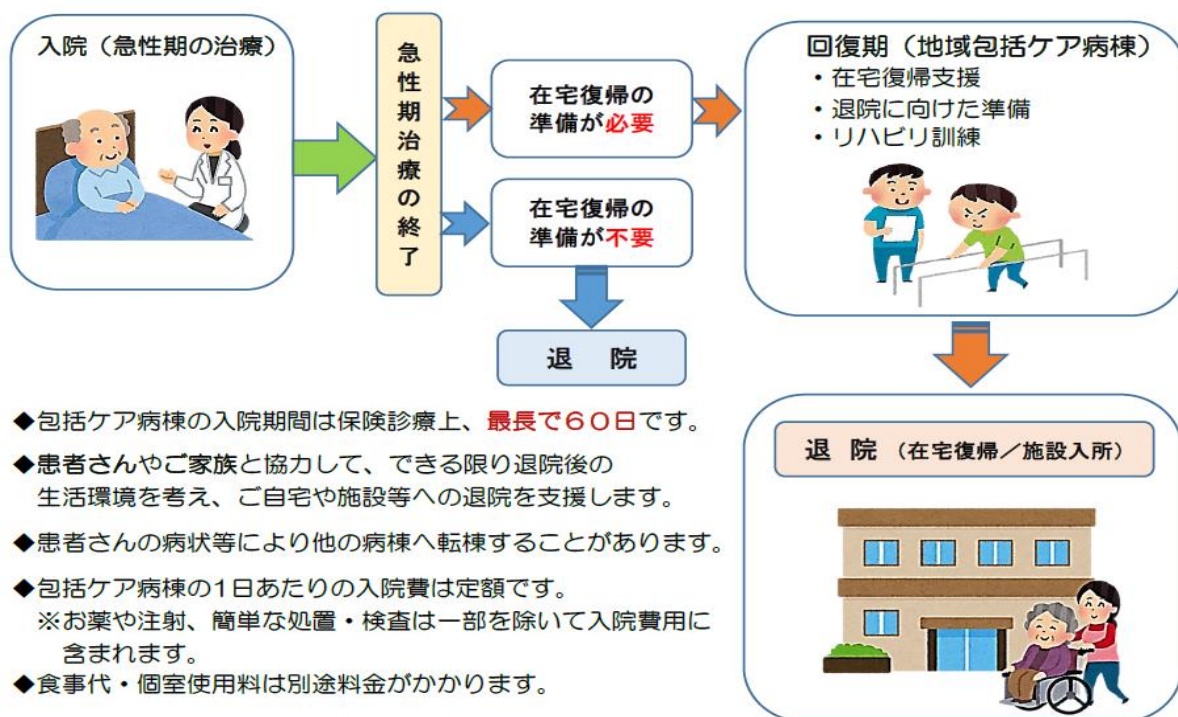
南b病棟(44床)

【対象となる患者さん】

- ◆急性期治療を終了した後、当院においてもう少し経過観察が必要な方
- ◆在宅復帰に向けて積極的なリハビリが必要な方
- ◆在宅または施設への入所などの準備が必要な方



患者さんが、安心して退院できるよう、医師、看護師、リハビリスタッフ、管理栄養士、医療相談員などが協力して治療や退院支援、退院後のケアについてサポートします。



- ◆包括ケア病棟の入院期間は保険診療上、**最長で60日**です。
- ◆患者さんやご家族と協力して、できる限り退院後の生活環境を考え、ご自宅や施設等への退院を支援します。
- ◆患者さんの病状等により他の病棟へ転棟することがあります。
- ◆包括ケア病棟の1日あたりの入院費は定額です。
※お薬や注射、簡単な処置・検査は一部を除いて入院費用に含まれます。
- ◆食事代・個室使用料は別途料金がかかります。

【入院する病棟】

- ◆南b病棟(44床)が地域包括ケア病棟です。
希望される方には、個室(有料)をご利用いただくことができます。
- ◆南病棟では、食堂・ラウンジ・浴室を整備しています。



病室(個室)

■地域医療連携室だより

・患者さまに関するご紹介・ご相談
地域包括ケア病棟などに関するお問い合わせは、地域医療連携室までご連絡をお願いいたします。

〔発行・編集〕平成30年2月発行

独立行政法人国立病院機構宮城病院
地域医療連携室

〒989-2202

亶理郡山元町高瀬字合戦原100番地

TEL (0223)37-1131 (代表)

<http://mnh.go.jp/index.html>